

# 水戸市立博物館



[詳しくはこちら](#)

水戸市立博物館では、水戸の自然・歴史・民俗・美術の4つの部門に関する展示が公開されています。歴史部門では水戸空襲に関連するものが集められ、戦時中の水戸市民が使っていた生活道具や、水戸にあった歩兵第二連隊関係の資料などの幅広い資料が収蔵されています。展示は毎年テーマを変えて行われているため、水戸と戦争の様々な関わりについて知ることができます。



水戸市立博物館の外観

# 霞ヶ浦海軍航空隊有蓋掩体壕 ゆうがいえんたいごう



[詳しくはこちら](#)

掩体壕とは、空襲から飛行機を守るために格納庫の役割をする構造物のことをいい、その中でもコンクリート製の屋根がついたものを有蓋掩体壕といいます。

阿見町にある掩体壕は霞ヶ浦海軍航空隊によって21基作られたうちの1基で、現在ではこの壕だけが残っています。

大きさは前面の横幅が約22メートル、飛行機が入る入り口の幅が約14メートルです。

1943年末から1945年初頭にかけて建設されたこの有蓋掩体壕は現在、一般の方によって所有、管理されています。



有蓋掩体壕

# かしまかいぐんこうくうたいあと 鹿島海軍航空隊跡



地図はこちら

鹿島海軍航空隊は、1938年に水上機<sup>すいじょうき</sup>(水の上から飛ぶ飛行機)の訓練のためにできました。1945年2月からは特攻隊員の訓練が行われ、多くの若い人たちが沖縄方面へ出撃していきました。基地は終戦によってアメリカ軍に<sup>せっしゅう</sup>接收された後、1946年から1997年まで病院として使われていました。

現在は、<sup>ちょうしゃ</sup>庁舎(基地の本部があった建物)や発電所、水上機を飛ばすためのカタパルトなどが残っています。



庁舎跡

# 法泉寺(戦没者慰霊碑など)



地図はこちら

1945年6月10日、土浦海軍航空隊はアメリカ軍爆撃機B29による空襲に見舞われました。この空襲では、予科練生や教官281人、民間人119人が亡くなりました。予科練生が避難した防空壕が攻撃を受け、吹き飛ばされたり生き埋めになったりと悲惨な空襲であったと言われています。予科練生の遺体は、土浦海軍航空隊適性部横の広場(現在の土浦第三高等学校)に運ばれ、大きな穴を掘って火葬されました。

1961年に、適性部の横にあった法泉寺に戦没者の墓が建てられ、空襲が行われた事実を現在に伝えています。



霞ヶ浦海軍航空隊戦没者慰霊碑

# B29墜落平和の碑



地図はこちら

1945年3月10日未明に、東京への大規模空襲を行った爆撃機B29の一機が、伊奈町(現つくばみらい市)板橋村<sup>まみあな</sup>狸穴に墜落しました。その B29からの生存者救出、遺体の処理に消防団員があたったとされています。搭乗員12人のうち9人は焼死、他の2人は重軽傷、1人は無傷で、生存の搭乗員3人が、消防団員等に救助され早朝警察署員より憲兵隊員に引渡されました。

この碑は日米友好のシンボルとして、2001年に  
<sup>くさまひでさぶろう</sup>草間秀三郎氏によって建てられました。



B29墜落平和の碑

# 谷田部海軍航空隊記念碑



[地図はこちら](#)

谷田部海軍航空隊は1939年に、霞ヶ浦海軍航空隊から独立して設置されました。通称「赤とんぼ」というオレンジ色の練習機による訓練が行われていましたが、1944年にはこの練習機の部隊は山形県の基地に移りました。その後、谷田部海軍航空隊では戦闘機による訓練が行われ、この航空隊からも出撃し、戦死した人がいました。

跡地には筑波学園病院が設立されており、過去の歴史を伝え二度と戦争のない平和な社会が続くことを祈願し、2013年、この病院を運営する財団法人筑波ろくじんかい麓仁会によって敷地内に記念碑が建てられました。



記念碑

# ゆいしんじ 唯信寺の記念樹



詳しくはこちら

1944年に東京の向島第一寺島国民学校から、唯信寺と養福寺と円通寺に子供たちが学童疎開してきました。「学童疎開」とは、空襲などの被害を避けるために狙われやすい都市部から農村へ移住することです。疎開によって助かった命も多くありましたが、疎開生活の現実は厳しく、子どもたちは保護者と離れて暮らし、十分な食料や安全な環境がない状況に置かれていました。このお寺に滞在した子どもたちは、終戦から46年後の1991年に再び笠間を訪れ、お世話になった地域の人々と再開し、記念の木を植えました。



唯心寺の記念碑と石碑

# 延命地藏尊



[地図はこちら](#)

お参りする人の長寿を願って名付けられた延命地藏尊は、1945年8月2日に起こった水戸空襲の際に防空壕で亡くなった犠牲者8人と、地元出身の戦死者3人を慰霊するため、この地域の終戦後の4代目町内会長によって建てられました。毎年8月2日には供養が行われています。



延命地藏尊



# 水戸歩兵第二連隊跡



[地図はこちら](#)

歩兵第二連隊は1874年に創設。当時は宇都宮に連隊本部が置かれていましたが、1884年に千葉の佐倉に、1909年の春に現在の茨城大学の敷地に移動しました。この隊は1944年11月、ペリリュー島での戦いで玉砕し、「水戸歩兵部隊の跡」碑が堀原運動公園の向かいに建てられました。



「水戸歩兵部隊の跡」碑

# 日朝親善記念碑、湖畔の柳



[地図はこちら](#)

茨城県内の鉱山や工場などに強制的に動員され、過酷な労働に従事した朝鮮人の数は、1945年当初1万人を超えていました。在日朝鮮人総連合会により1960年に建てられた日朝親善記念碑は、茨城県における在日朝鮮人の戦後の帰国を記念したものとなっています。また、帰国事業と日朝親善、千波湖のシンボルとして日朝協会水戸支部をはじめとした諸団体の呼びかけにより柳が植えられました。



日朝親善記念碑

# ぐんかん な か ちゅうこん ひ 軍艦那珂忠魂碑



[詳しくはこちら](#)

茨城県と栃木県を流れる那珂川から「那珂」と名付けられた軍艦は、主に太平洋戦争期に使われ、船の中に置かれた艦内神社には大洗磯前神社が祀られていました。1944年2月17日に、太平洋のトラック島沖でアメリカ軍の攻撃に遭い沈没し、多くの船員が亡くなりました。1983年に大洗磯<sup>いそさき</sup>前神社の境内に「軍艦那珂忠魂碑」が建てられ、毎年2月17日には慰霊祭が行われています。



軍艦那珂忠魂碑

# 百里原海軍航空基地跡



[地図はこちら](#)

1938年に発足した百里原海軍航空隊の本部は、現在の茨城空港ターミナルビル北側に位置しており、空港が共用する航空自衛隊百里基地側まで敷地が広がっていました。敗戦後、基地は解体され、その跡地には茨城空港と航空自衛隊百里基地が建設されました。そのため、当時の基地を見ることはできませんが、正門の石柱や隊員たちが武運を祈っていた百里神社は現在も残っています。



百里原海軍航空基地正門

# ほこたりくぐんひこうがっこう 銚田陸軍飛行学校



地図はこちら

銚田陸軍飛行学校は、1940年に設立され、主に爆撃に関する訓練と研究を行っていました。1944年に銚田きょうどうひこうしだん教導飛行師団と改称され、陸軍初の特攻隊である「万朶隊」ばんだたいなどの育成を行いました。1945年の終戦とともに、飛行場や学校のあった敷地は農地となりました。現在は、特攻や訓練で亡くなった人々の名前がけんしょうひきざまれた顕彰碑と、訓練を監視するための建物であるかんてきごう監的壕が残っています。



顕彰碑

# 北浦海軍航空基地



地図はこちら

「予科練」に関する遺構です。1942年4月1日に予科練の育成と水上飛行機の訓練を目的として設置され、当時は格納庫4棟や、約80機の練習飛行機(赤とんぼ)・戦闘機などが配備されていました。その後は戦局の悪化に伴い、練習航空隊基地の役目を果たせなくなったため、1945年5月に解隊、同年10月に解散となりました。現在は滑走台が潮来マリーナ敷地内に、格納庫の基礎や貯蔵庫が私有地内に、また慰霊塔や

ごぎょうこうけい  
「皇太子昭仁殿下御行幸啓記念碑」も残っています。



北浦海軍航空隊慰霊塔

# 水戸陸軍飛行場跡地



地図はこちら

水戸陸軍飛行場は、水戸陸軍飛行学校の訓練や陸軍の実験に使用するため1938年に建てられました。戦争が終わるまで飛行場を大きくするための工事が行われていましたが、その工事には学童、女性、朝鮮人などたくさんの方が協力するよう求められました。

現在の飛行場跡地には、陸軍航空通信学校の門柱や、実際に使われていたプロペラなど飛行場に関連するものが展示されています。他にも国のために戦った人々を後世に伝え、平和を祈ることを目的として1975年に建てられた「水戸つばさの塔」があります。



水戸つばさの塔

# 防衛館(※要予約)



[詳しくはこちら](#)

防衛館は、茨城郷土部隊史料保存会が収集した日露戦争からペリリュー島の戦いまでの水戸歩兵第二連隊に関する史料の保管・展示をするために2016年に開館した施設です。

1階では水戸歩兵第二連隊と歩兵第二連隊出身者などで構成された歩兵第102連隊・歩兵第237連隊・歩兵第213連隊の遺品が展示されています。2階は水戸工兵第14連隊と現在のひたち海浜公園にあった前渡飛行場で編成された振武隊や鉾田の<sup>ばんだたい</sup>万朶隊など陸軍の特攻隊の展示を行っています。



防衛館正面



# 日立空襲艦砲射撃慰霊碑「陶輪碑」



[地図はこちら](#)

1945年、茨城県では水戸市、日立市、ひたちなか市、土浦市などの地域を中心に、大規模な空襲・艦砲射撃が行われ、これらの攻撃により県内では多くの死者が出ました。中でも最大の被害を受けたのは、戦争に関連する物資の生産という面で、重要な都市であった日立地域でした。

このように、犠牲となった人々の慰霊を目的として、1957年に日立製作所により「陶輪碑」が建てられました。碑文によると、日立・多賀・水戸等の地域をあわせて751人が亡くなったとされます。



陶輪碑

# 茨城師範学校学徒殉難碑



地図はこちら

茨城師範学校は、小学校教員を目指す人々を養成するための学校でしたが、1944年の学徒動員令によって、師範学校の生徒たちも県内各地の工場へ働きに出ることになりました。

1945年7月17日、日立の都市が激しい艦砲射撃を受け、この時、日立電線工場に動員されていた師範学校の生徒12人、および教官1人が犠牲となりました。また、この他にも日立市宮田町・助川町の一帯において、多数の死傷者や被害が出たとされます。

被害に遭った人々の冥福と平和を祈り、1947年に茨城師範学校の卒業生によって殉難碑が建てられました。



茨城師範学校学徒殉難碑

# 1トン爆弾投下跡(※要予約)



[地図はこちら](#)

1トン爆弾投下跡は日立製作所日立事業所の敷地内に存在する、1945年6月10日に起きた空襲の際に落とされた1トン爆弾の弾痕です。

空襲では4回にわたってやって来たB29によって、508発の爆弾が落とされました。日立製作所日立事業所海岸工場には308発の爆弾が投下されたことで、9割以上の建物が破壊され、従業員634人が亡くなりました。また、工場の周りにも爆弾が落とされ、住宅1486戸が全壊し、市民886人が亡くなり、716人のケガ人がでました。



1トン爆弾の弾痕

# 武具池



地図はこちら

1943年、現在の水戸市西部に位置していた下中妻村では、食糧不足解消のための米や麦の増産といった国の施策に応じて武具池の改修工事と下流一帯の土地改良を実施することが決められました。当時満洲で

の定住のための訓練を内原で行っていた<sup>まんもう</sup>満蒙開拓青少年義勇軍の訓練生にも協力が求められ、訓練所の外で行う訓練として2000人の訓練生が工事に取り組みました。工事中の土砂崩れにより訓練生2人が死亡

する事故が起き、彼らを<sup>いた</sup>悼むため1951年に下中妻村をはじめとした耕地整理組合によって池の堤防西端に

<sup>じゅんなんひ</sup>殉難碑が建てられています。



殉難碑

# ゆうしょうかん 雄翔館



[詳しくはこちら](#)

海軍の飛行機乗りとなる少年たちを育てる「予科練」が置かれた土浦海軍航空隊の跡地には現在、陸上自衛隊武器学校が建てられています。

雄翔館は、この武器学校の敷地内にある施設で、予科練戦没者の遺書や遺品を収蔵、展示しています。

また、隣接する雄翔園も、「予科練の碑」などが建てられ、予科練を現在に伝えています。

1968年に開館した雄翔館は、予科練出身者やその遺族などで構成され、予科練出身戦没者の慰霊などを目的としている財団法人「海原会」によって管理されています。



雄翔館